

2022年10月に発出された米陸軍 FM3-0 の主要変更点について

1 趣 旨

2022年10月11日に発表された米陸軍ドクトリン FM3-0 の 2017 年版からの主要変更点について、取り纏めたものである。

2 記述体系

<div>Chap.1 Overview of army operations Large scale combat operations Challenges for army forces Anticipated operational environments Multi-domain extended battlefield Threats Joint operations The army in joint operations The army's operational concept Operational Art Strategic and Operational Reach Operational Framework Sequencing Operations Control measures Paths to victory Chap.2 Army echelons, capabilities, and training Chap.3 Operations to shape Chap.4 Operations to prevent Chap.5 Large scale combat operations Chap.6 Large scale defensive operations Chap.7 Large scale offensive operations Chap.8 Operations to consolidate gains</div>	<div>Chap.1 Foundations of operations Army operations Multidomain operations Challenge for army forces Lethality ; overcoming challenges War and warfare Understanding an operational environment Chap.2 Generating and applying combat power Chap.3 Fundamentals of operations Chap.4 Operations during competition below armed conflict Chap.5 Operations during crisis Chap.6 Operations during armed conflict Chap.7 Army operations in maritime environments Chap.8 Leadership during operations</div>
---	--

【2017年版】¹

【2022年版】²

3 主要変更点

(1) 主要変更点の概要

2022年版の FM3-0 の主要変更事項を概観すれば、以下の通りである。次項以降にて細部は説明する。

- ① 記述態度として大規模戦闘を焦点とした記述への見直し
- ② 伝統的な陸軍の立ち位置への再帰（海洋領域での陸軍の役割・作戦も個別に言及）
- ③ 戦争の概念の再整理（戦争の本質 (Nature of War) への陸軍の見解の明確化、紛争の時系列区分としての見方から連続体としての見方への見直し、戦争の階層の再整理、領域及び次元の2軸の見方の整理）
- ④ 具体的な対象国、場面を戦域レベル以下で具体化（対象国の作戦環境への影響を具体的に分析、紛争初期段階での不利を深刻に認識）

¹ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2022, i,

² US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2022, i,

(2) 細部変更点

ア 記述態度

国家防衛戦略における脅威対象の明確化³を受け、対象国（中露）への戦略～作戦次元での対処を具体的に記述。特に2022年版の記述の焦点は大規模戦闘が行われる 作戦における陸軍種の役割・作戦を具体化⁴しており、その具体化の度合いは1986年エアランドバトル時代のFMを彷彿させる。

イ 伝統的な陸軍の立ち位置への再帰（陸戦の意義強調、他領域との関係明確化）

（ア）陸上戦力及び陸領域の意義の強調

「陸軍の最重要任務は、敵陸戦力を撃退し、陸地を確保・占領・防御できる陸軍を育成・維持すること⁵」、「陸領域は、海領域とは区分され沿岸域を含む地域であり、多様な気象、地形、人が生存する地域であり、他領域に大きな影響を与える領域。

（中略）人類は海、空、宇宙で活動しうるが、最終的な生活や政治的決断、紛争に係る重大判断は陸領域により行われる⁶」

（イ）海洋環境における陸軍作戦について記述

○ 著名な海軍提督及び理論家による陸軍の意義づけについて引用

- ・「人類は海ではなく陸に住み、国家間紛争の重要問題は、限られた例を除き地上軍が相手の領土にどのような影響を及ぼせるかに基づいて決定される⁷」

（J. コーベット）

※ 上記内容は2017年版でも記述

- ・「戦争の基本原則は変化せず、最終的な目標は敵軍の撃破による意思と能力の破砕であり、それは陸と海からの圧力によりなされるが、究極的な敢制（コントロール）は陸地の支配に寄るものである⁸」

（W. ニミッツ）

○ 北極海の作戦環境⁹について新規に記述

○ 海洋環境における陸軍の役割は、①重要地形の確保・敢制¹⁰、②敵のA2/AD打倒及び統合による攻勢作戦の条件作為（防空¹¹、着上陸作戦¹²）、③海洋環境での大規模作戦能力の兵站支援¹³

³ US. Department of Defense, “Summary of the 2018 National Defense Strategy of The United States of America”, Oct 2018, 2,

US. Department of Defense, “Fact Sheet: 2022 National Defense Strategy”, Mar 2022, 1,

⁴ US.Army HQ, “FM3-0 Operations”, October 2022, ix,

⁵ US.Army HQ, “FM3-0 Operations”, October 2022, 1-1,

⁶ US. Army HQ, “FM3-0 Operations”, Oct 2022, 1-18,

⁷ US. Army HQ, “FM3-0 Operations”, Oct 2022, 1-16

⁸ Ibid, 7-1,

⁹ Ibid, 7-2,

¹⁰ Ibid, 7-10,

¹¹ Ibid, 7-13,

¹² Ibid, 7-13, 7-14,

¹³ Ibid, 7-15

ウ 戦争の概念の再整理

(ア) 戦争の本質 (Nature of War) への陸軍の見解の明確化

以前は記述されていなかった Nature of War の項目を追記¹⁴

「戦争の本質は従来から変化なし¹⁵」、「戦争の性格 (Characteristics of War) は科学技術、国家政策、作戦構想、世論等の要因により変化¹⁶」

(イ) 時系列区分に基づく記述から紛争を連続体 (Conflict Continuous) とする見方に変更

- 「紛争前の競争段階」「危機段階」「紛争段階」という時系列的な推移と考えるのではなく、米国と対象となるアクターの関係の性質を「協調」から「紛争」までのスペクトラムとして見る視点¹⁷への見直し
- 単純な平和状態と戦争状態の二元論では戦略環境の安定化や、グローバルへの有効な対処に限界があることを踏まえ、米軍全体として導入されている概念である。細部は海上自衛隊幹部学校 長谷川淳氏の論考¹⁸を確認されたい

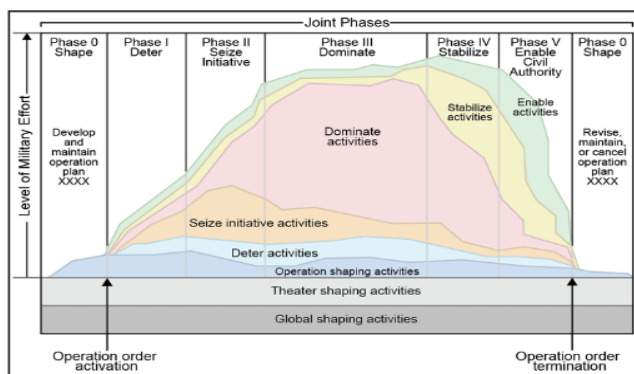


Figure 1-3. Notional large-scale combat joint phasing model

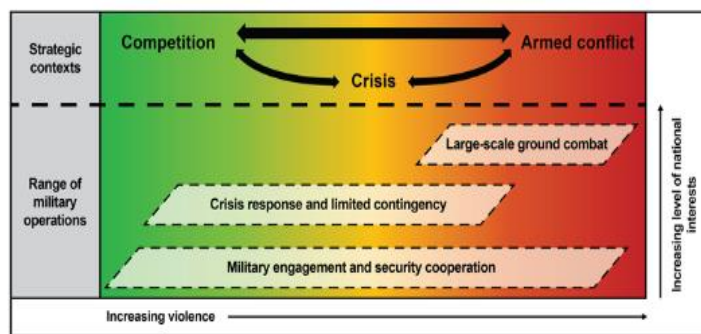


Figure 1-3. Army strategic contexts and operational categories

【2017年版】¹⁹

【2022年版】²⁰

(ウ) 戦争の階層について、作戦レベルの上位に戦域レベルを追加（戦争の階層の再整理）

2017年版における戦争の階層については、「戦略」、「作戦」、「戦術」の3階層²¹としていたが、2022年版においては、「戦略」と「作戦」の階層の間に「戦域 (Theater Strategic)」を追加²²。

【2022年版】²³

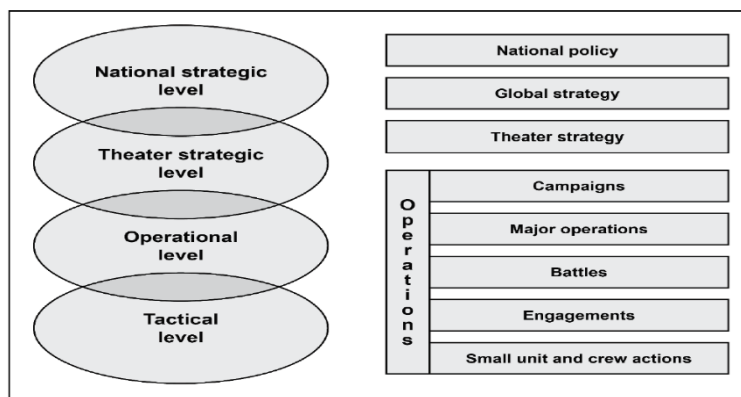


Figure 1-2. Levels of warfare

¹⁴ Ibid, 1-6

¹⁵ Ibid, ix

¹⁶ Ibid, 1-8

¹⁷ US. Joint of Staff, "Competition Continuum", June 2019, 2,

¹⁸ 長谷川淳, "平和と戦争" 二分法的世界観への挑戦, 海上自衛隊幹部学校戦略研究第12巻第1号, 2022年6月,

https://www.mod.go.jp/msdf/navcol/assets/pdf/ssg2022_06_02.pdf

¹⁹ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2017, 1-12,

²⁰ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2022, 1-14,

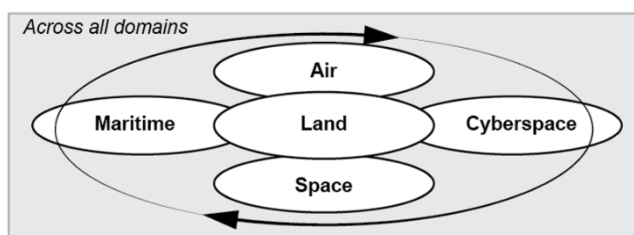
²¹ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2017, 1-5,

²² US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2022, 1-12,

²³ Ibid,

(エ) 領域、次元の2軸の見方(新機軸)

- 領域及び次元の定義を明確化
- 領域とは、代替不能な能力や専門的技術を有した軍種の存在を必要とする物理的な一空間として定義されるもの²⁴。陸、海、空、宇宙、サイバーが該当
(電磁波は各領域に影響する要素の一つと整理²⁵)
- 次元とは指揮官等が各領域での作戦遂行上の影響を評価する視点として位置づけ「物理」、「情報 (データ)」、「人間 (認知)」に区分²⁶



【2017年版】²⁷

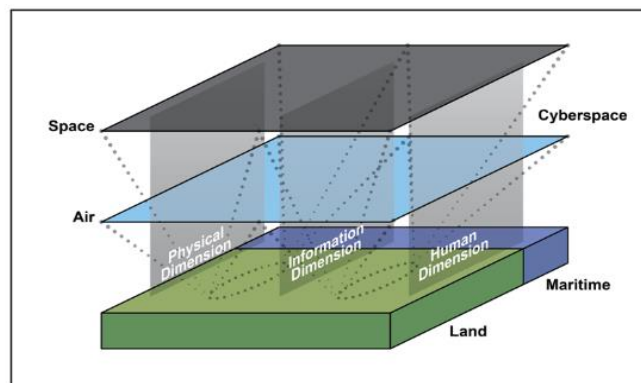


Figure 1-4. Domains and dimensions of an operational environment

【2022年版】²⁸

エ 具体的な対象国、場面を戦域レベル以下で具体化

(ア) 対象国の作戦環境への影響を具体的に分析

2017年版までに見られた、どのような状況、場面においても適用可能な一般的な記述から、主要な脅威対象と見なす中国及びロシアの各種影響力と米国本土との位置関係から作戦環境を分析²⁹

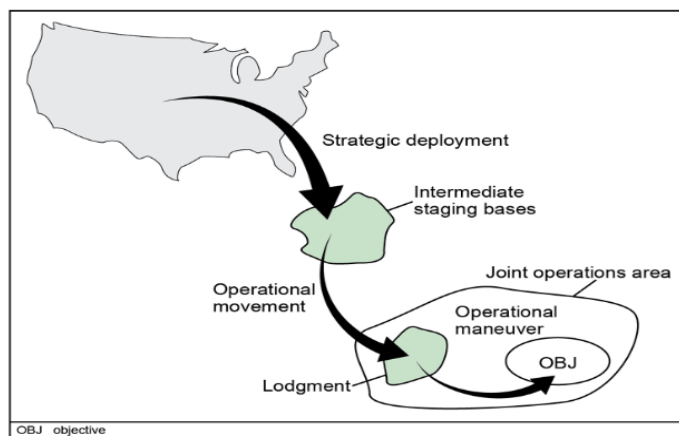
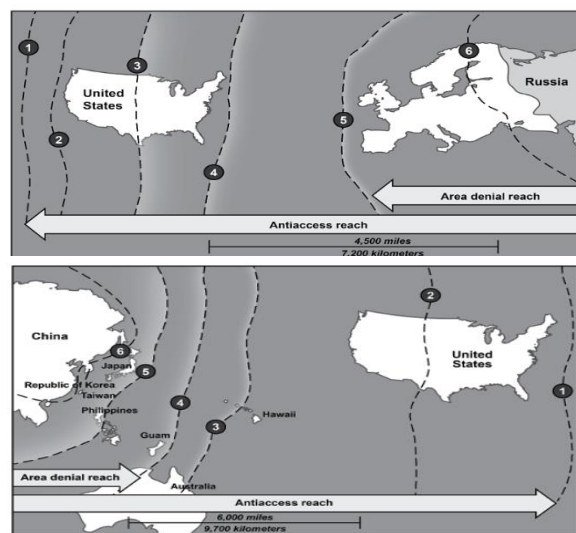


Figure 1-5. Operational maneuver from strategic distance

【2017年版】³⁰



【2022年版】³¹

²⁴ Ibid, 1-18

²⁵ Ibid, 1-17

²⁶ Ibid, 1-21

²⁷ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2017, x,

²⁸ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2022, 1-17,

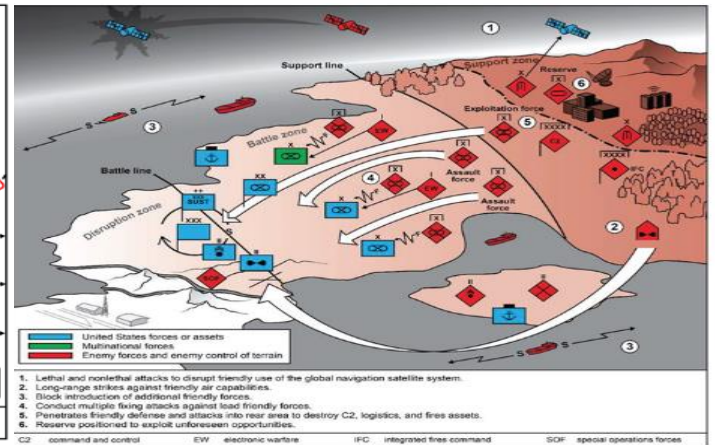
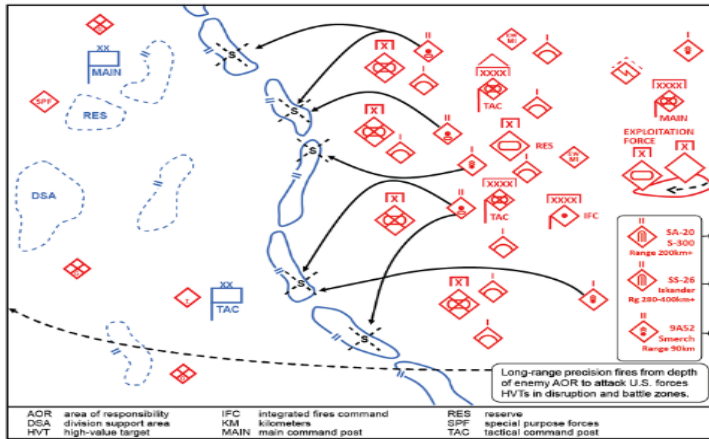
²⁹ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2022, 2-17,

³⁰ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2017, 1-24,

³¹ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2022, 2-10,2-11,

(イ) 紛争初期段階での不利を深刻に認識

2017年版では大規模作戦における一般原則的事項を白紙的に記述。2022年版では、脅威国の領域近傍における米軍のアクシ及び戦力発揮が制限され、紛争初期における戦略的不利³²が生起するという国家軍事戦略の情勢認識に対応した、より具体的な場面での作戦遂行要領について記述

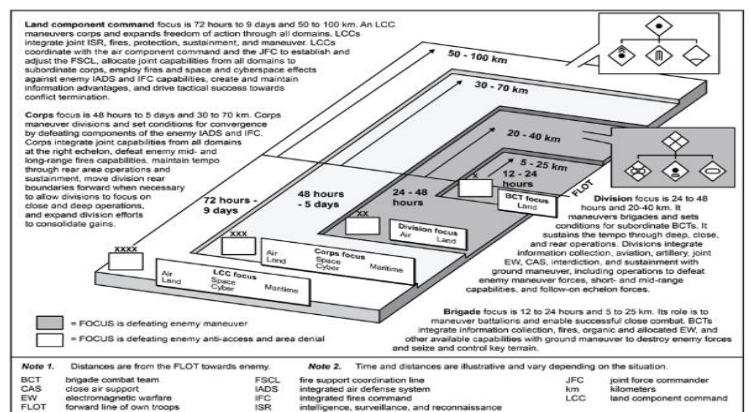
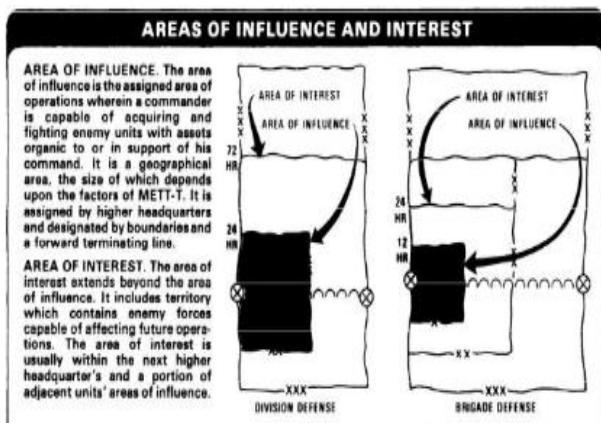


【2017年版】³³

【2022年版】³⁴

(3) 従来内容を踏襲している事項(作戦的にはALBの作戦思想・手法を踏襲する面も散見)

戦略的環境は変化し、マルチドメイン作戦の要素を包含しつつも、作戦レベル以下ではClosed AreaとDeep Areaの作戦を同時進行させていくことから、エアントバトルの方法論を踏襲



【1982年版】³⁵

【2022年版】³⁶

³² US. Department of Defense, "Summary of the 2018 National Defense Strategy of The United States of America", Oct 2018, 3,

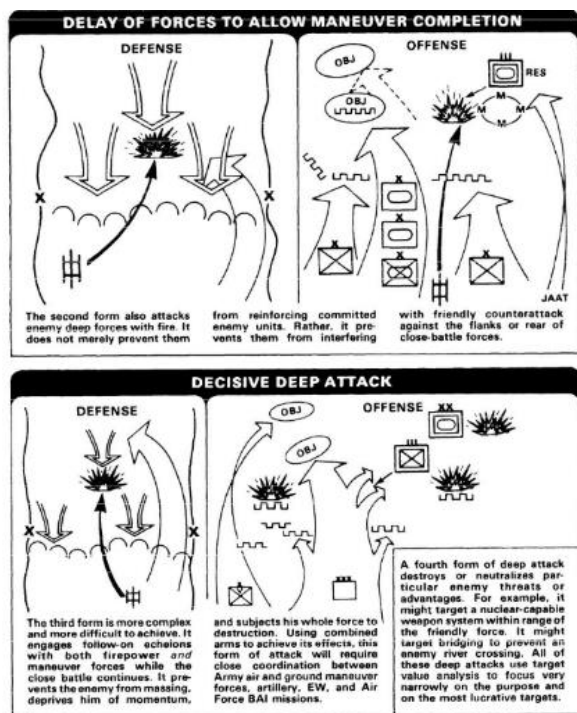
³³ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2017, 6-5,

³⁴ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2022, 6-34,

³⁵ US. Army HQ, "Operations FM100-5", 1982, 7-15,

[https://www.bing.com/ck/a?!&p=a1db9910f04022fjmltdHM9MTY2NTcwNTYwMCZpZ3VpZD0wYzU0ZDY3OS0xZDhlLTZjNDQzMmNmNSIjNmJmMWM5MjZkYjQmaW5zaWQ9NTE3Ng&ptn=3&shh=3&fclid=0c54d679-1d25-6c44-2c5f-c6bc1c926db4&psq=FM+100-5%2c+Operations+\(Washington%2c+DC%3a+Department+of+the+Army%2c+1982&u=a1HR0cHM6Ly9hcmNoaXZILm9yZy9kZXRhaWwzL0ZNMTEwLTVpGVyYXRpb25zMTk4Mg&ntb=1](https://www.bing.com/ck/a?!&p=a1db9910f04022fjmltdHM9MTY2NTcwNTYwMCZpZ3VpZD0wYzU0ZDY3OS0xZDhlLTZjNDQzMmNmNSIjNmJmMWM5MjZkYjQmaW5zaWQ9NTE3Ng&ptn=3&shh=3&fclid=0c54d679-1d25-6c44-2c5f-c6bc1c926db4&psq=FM+100-5%2c+Operations+(Washington%2c+DC%3a+Department+of+the+Army%2c+1982&u=a1HR0cHM6Ly9hcmNoaXZILm9yZy9kZXRhaWwzL0ZNMTEwLTVpGVyYXRpb25zMTk4Mg&ntb=1)

³⁶ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2022, 6-11



【1982年版】³⁷

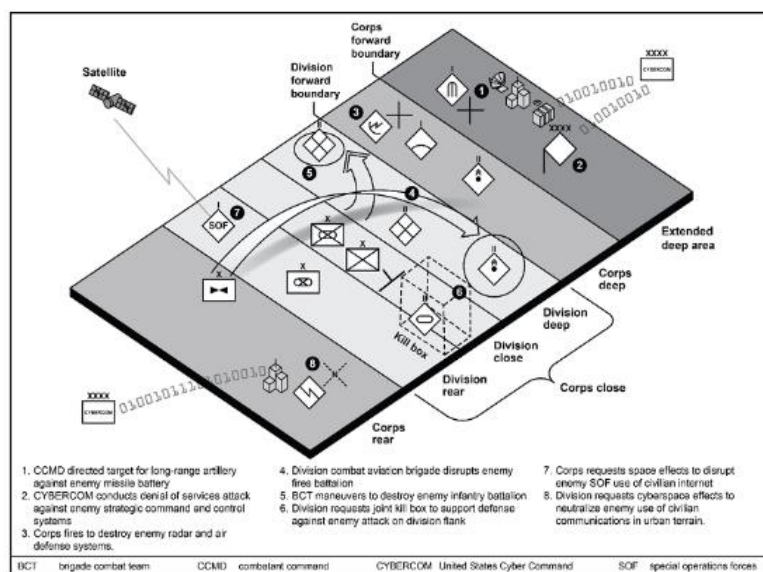


Figure 6-7. Notional operational framework during offensive operations

【2022年版】³⁸

4 おわりに

本文書においては、米陸軍 FM3-0 の改定及び発表を受け、まずはどのような記述の変化がなされたのかを明らかにし、分析は不十分ながら、まずは主要な変更点について理解促進を図るものである。個々の変更事項の分析や意義付けについては、今後の論考に委ねたい。

(教育訓練研究本部研究部 1等陸佐 菊池 裕紀)

(本記事に示された見解は、陸上自衛隊教育訓練研究本部における研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省、陸上自衛隊の見解を表すものではありません。)

³⁷ US. Army HQ, "Operations FM100-5", 1982, 7-17,

³⁸ US. Army HQ, "FM3-0 Operations", Oct 2022, 6-44,